

武蔵野美術大学『美術とデザインに関する調査』

10代女性の6割はデザイン重視派！

美術大学で学ぶ“カタチを創る力”の価値を体感できる機会提供を

武蔵野美術大学（東京都小平市、学長 甲田洋二）は、全国の男女10代～60代までの600人を対象に、『美術とデザインに関する意識調査』を実施しました。美術を学ぶ場所としての美術大学のイメージから“どのくらい美術というものに対して身構えているか”を調査する一方、日常生活における消費行動が、“どれくらいデザインに寄り添ったものになっているか”についても調査、潜在的な美術・デザインへの接触意欲を明らかにしました。

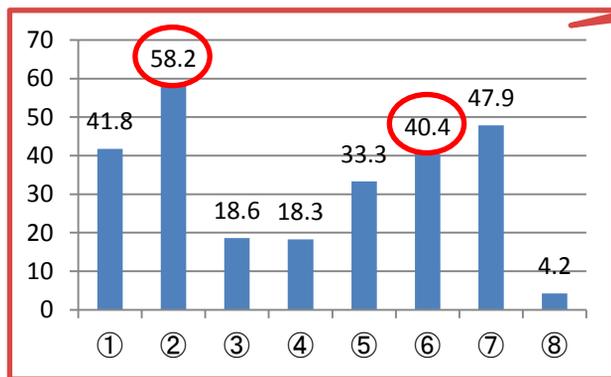
美大のイメージ、実際の教育とギャップ！

「美術大学と聞くと思い浮かべるイメージ」について尋ねたところ、「画家や彫刻家を目指す人のための専門教育機関」と答えた方が64.7%、「美術史や画法、色彩学など専門性の高い学問を学ぶ専門教育機関」と答えた方が53.9%でした。一方で、「自動車や携帯電話など、ものづくりに欠かせないデザインを学ぶことができる高等教育機関」と答えた方が12%と最も低く、日常生活では関わりのない縁遠い世界である、と考えられていることが分かります。

しかし実際は、武蔵野美術大学の7割がデザイン領域の学科となっており、美大ならではの教育で培われる感性、思考、表現力は「企画力」「プレゼンテーション能力」といった、社会のあらゆる場面で必要とされるかに直結しています。

質問：一般消費財以外の、雑貨や家電などを購入する際、価格よりも重視するものは何ですか？

機能性を重視される方が約6割、
デザインを重視される方が約4割に。



日常の中で惹かれている“カタチを創る力”

今回の調査では、美術大学についての質問の他に「雑貨や家電を買うときのあなたの考え方（複数回答）」について尋ねたところ、「使い易い、使っていて気持ちがいいと言った機能性を重視して買っている」と答えた方が58.2%、「デザインや色合いが自分の好みに合っているかどうかにかかわらず買っている」と答えた方が40.4%と、価格よりも、機能性・デザインに比重を置いて選んでいる方が多数いることが分かりました。特に10代女性はこの傾向が顕著で、6割以上の女性がデザインを重視するとの回答を選択しています。機能やデザインなど、美術を学ぶことによって身につく“カタチを創る力”が必要とされていることが見受けられる結果となりました。

武蔵野美術大学では、こうした日常の中の美術・デザインに触れてもらう機会を多く提供し、その価値を再認識いただけるようなきっかけづくりを積極的に展開しています。

<本件に関するお問い合わせ先>

武蔵野美術大学 PR事務局 (株)ブラチナム内 担当：宮崎・住川

TEL：03-5572-6071 FAX：03-5572-6075 MAIL：a-miyazaki@vectorinc.co.jp

武蔵野美術大学芸術祭2014

MAU CIRCUS



年々規模を拡大していきながら、例年3万人以上の来場者が集まる「武蔵野美術大学 芸術祭2014」を10月25日（土）～10月27日（月）の会期中に開催いたします。

今年は「サーカス」をテーマに、500を超えるムサビ生の作品展示だけでなく、ライブペインティングやワークショップ、プロジェクションマッピングなどの企画を予定しています。

武蔵野美術大学の芸術祭は、運営から制作・実施、広報・プロモーションに至るまで、すべて学生が行うことが最大の特徴となっており、今年は執行部として、各学科から約270名もの学生が集いました。

2014年のテーマは「サーカス」！コンセプトもロゴも学生が考案

芸術祭では、毎年世界観を演出するためのテーマを設定しており、そのテーマ自体も学生たちによるコンペティションによって決定しています。

このコンペティションは芸術祭が開催される約9ヶ月も前から始まり、多数の案の中から度重なる審議を行った結果、今年のテーマは「サーカス」に決まりました。作品を作るムサビ生は、見ている人を楽しませるサーカス団の「パフォーマー」のようであり、それぞれの個性を持った学生が集まるムサビは多種多様な魅力の詰まった「サーカス」のようであることから、テーマをサーカスにしました。

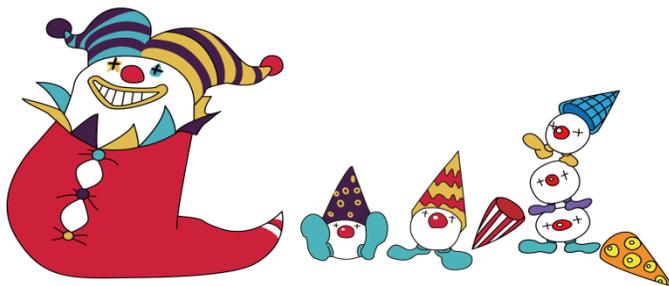


<2014年度芸術祭 公式キャラクター>

くっついたり、離れたり、増えたり、さまざまな形に変化して芸をする。なんとムサビ生の作った粘土に物づくりの魂がやどって生まれた「ダンチョ」と「チョチョ」。そんな愉快的彼らは特技を活かしてムサビ生とサーカス団を結成！

ダンチョ

チョチョ



注目コンテンツ①

完全オリジナルな“プロジェクションマッピング”

ムサビの映像科4年生と2年生が今年のテーマ「サーカス」とテーマカラーに合わせて、3DCGを制作し、使用する音もすべて完全オリジナルなムサビ生が手がけたプロジェクションマッピング。スピーカーを16台使用して立体サウンドの環境を作り、芸術祭のフィナーレを飾ります。



＜ムサビ生からのコメント＞

2014年芸術祭の幕を閉じるに相応しい映像にするため、また多くの関係者の方々の気持ちに応えられるよう制作してきました。

注目コンテンツ②

その場でゼロから完成させる“ライブペインティング”

芸術祭開催中、毎日ゲストを変えて行うライブペイント。ムサビ生や卒業生による、普段は見ることのできない過程と共に、何が起るのか、最後までわからないドキドキのペインティングサーカスを楽しめます。



＜ムサビ生からのコメント＞

芸術祭というビッグなイベントで絵を生で描くことができるということに、早くも今から緊張しています！しかし、同時に同じくらいワクワクしております！ライブペインティングを見ている人をワクワク、そして、これからどうなるのか、ドキドキさせるようなサーカスを描きたいと思います！

注目コンテンツ③

仮面をつくろう！“ワークショップ”

今年度初の試みとなる、小学生を対象とした企画。小さい子でも楽しむことができる「仮面づくり」を予定しており、仮面をつけることで芸術祭を一緒に盛り上げていただきます。また、仮面をつくるだけでなく、同じく仮面をつけたムサビ生に声をかけると仮面につける飾りをもらえ、自分だけのオリジナリティのある仮面をつくることができます。



＜ムサビ生からのコメント＞

一番の目的は来場者さんに作るという事を体感してもらいテーマを持ち帰ってもらうことです。芸術祭は“見る”ものは沢山ありますが、“作る”ものはあまりありません。学生の作品やパフォーマンスを“見る”だけでなく“作る”事で美大という空間をより体感してもらおうということが今回の狙いです。他の企画と比べると小さい企画ですが、ワークショップに参加した人の心に少しでも残るものとなれば良いなと思っております。

ムサビの芸術祭の一番のメインとなっているのは、ムサビ生達の作品展示です。今年も三日間でも見きれないほどの絵画、映像、立体、イラストなど個性あふれる作品が500点近く展示されます。作品展示は美大の芸術祭ならではの特徵でもあり伝統です。

企画で言いますと、「男神輿・女神輿」と「一丁目」というものがあり、伝統として毎年引き継がれており、人気を博しています。

「男神輿・女神輿」とは、彫刻学科によるパフォーマンスパレードで、祭典期間中の3日間、男神輿・女神輿の二つの神輿を担いで約半日かけて校内をまわるというものです。それぞれの神輿の造形とそれを担ぐ彫刻学科の学生の体を張った出で立ちの迫力がこのパフォーマンスの大きな魅力になっています。

次に、「一丁目」とは飲酒可能な模擬店エリアのことで、歓楽街のような雰囲気大きな魅力です。お酒の管理についても学生が自治を行っており、毎年大きな問題が起こらないように対策を行なっています。一丁目が伝統として受け継がれているのは学生自身のそのような努力のおかげでもあります。

毎年の芸術祭成功のポイントとして、ムサビ生の制作へのしびとさがあります。毎年、ムサビの芸術祭は、展示や模擬店、フリーマーケット、パフォーマンスなどのカテゴリーズに関わらず、それら一つ一つのクオリティがとても高いです。しかし、そこまでに行き着くまでには使用するスペースの確保や安全上の問題などさまざまな障害があります。それら全てを乗り越えて、クオリティの高い「作品」を作り上げるその制作へのしびとさが芸術祭最高のポイントだと思います。今年の芸術祭でも、来場者の方にはその「しびとさ」を存分に満喫して頂きたいです。

最後に、今後の芸術祭が、このムサビ生の「しびとさ」で、男神輿・女神輿や一丁目以外の新しい伝統を作り上げるものになるよう頑張っていきたいです。

< 昨年の芸術祭の写真 >



< 開催概要 >

- 開催日時：2014年10月25日（土）～27日（月）
- 開催時間：10:00～19:30（完全退校）
 展示企画 10:00～18:00
 イベント 10:00～19:00
- 主催：武蔵野美術大学 芸術祭実行委員会
- 内容：作品展示、ライブペインティング、
 プロジェクションマッピング、ワークショップなど
- 公式HP：<http://geisai.jp/>
- 公式ブログ：<http://geisai.jp/wp/blog/>